LIBRARY

いわき総合高校図書委員会　平成 26 年１１月号

今月のオススメ📖

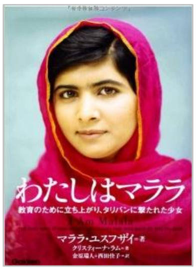
≪わたしはマララ　教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女ユスフザイの祈り　≫

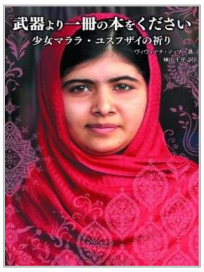
著者：マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム　　　翻訳：金原　瑞人、西田　佳子

今回は、ノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララ・ユスフザイの本を紹介します。新聞やテレビの報道で皆さんもマララさんのことは知っていますね。７月に１７歳になったばかりの高校２年生です。皆さんはマララさんのニュースを耳にして、何を感じ、何を考えましたか？

『わたしはマララ』は「すべての子どもに教育を」と訴え、イスラム武装勢力に銃撃された 16 歳の少女・マララの手記です。本書は、テロリズムによって生活が一変した家族の物語でもあり、女の子が教育を受ける権利を求める戦いの記録でもあります。世界 24 か国で翻訳の話題作!

他に『武器より一冊の本をください』もオススメです。児童書を出版する「金の星社」から出ており、小学校高学年以上を対象にしていますので、とても読みやすいです。この２冊は、同じ高校生の皆さんに是非、手に取って読んで欲しい本です。本校図書館でも購入予定です。入り次第「図書だより」でお知らせいたします。





マララさんは、国連とノーベル賞受賞時に母語ではない英語でスピーチをしています。国連でのスピーチの一文を紹介します。平易で分かりやすい英文なので、原文のまま掲載します。

One child, one teacher, one pen and one book can change the world.
Education is the only solution. Education First.

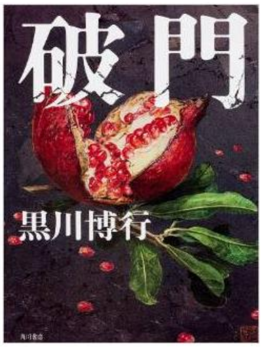
新刊案内☺

≪破門≫　著者：黒川　博行　　**2014年度 第151回直木三十五賞受賞**

建設コンサルタントとヤクザの相性最悪コンビが、映画ビジネスの巨額資金をめぐって大阪、マカオのカジノへと東奔西走する。“コミカルでポップなヤクザ”という、ありそうでなかった絶妙な傑作です。

黒川さんは直木賞６度目のノミネートで、実に初ノミネートから**１８年目の受賞**だったそうです。何事も諦めないことですね。主人公が飼っているオカメインコは黒川家にもおり、小説の中でしゃべっている言葉は、ほとんど本物のマキちゃんが言ったことだそうです。名前も同じ“マキ”です。家の中で放し飼いにし、寝るときは黒川さんの枕の横で寝ているとか‥‥。

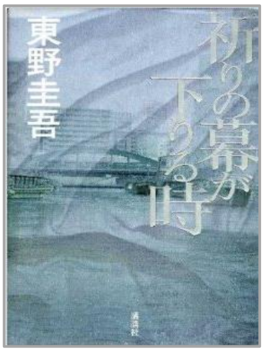
黒川さんは専業作家になる前、大阪府立高校の美術の先生をしていたそうです。専門は彫刻で、奥様は日本画家の黒川雅子さんです。黒川さんの多くの作品の装画を担当しています。もちろん「破門」の装画も奥様の作です。因みに、奥様も中学校の美術の先生をしていたそうですよ。黒川さんの作品は、２時間ドラマや連続ドラマにもなっています。是非、小説も読んでください。



先生のおすすめ　大内 慎也 先生

≪祈りの幕が下りる時≫　著者：東野　圭吾

アパートで見つかった腐乱死体。公園で見つかった焼死体。初めての演劇興行を成功させようとしている演出家。失踪した母親。自殺した父。原発作業員。普通に考えれば、交わらなかったはずの登場人物たち。日本橋署の刑事・加賀恭一郎の冷静で鋭利な推理が、複雑に絡み合ったそれぞれの糸を解きほぐしていく。



東野圭吾さんの小説は文章も小難しくなく、全体的に読みやすいです。結末もこちらの予想を超えるものが用意されている印象です（まあ、何冊か読むと中盤くらいで犯人が見えてくるようになりますが、その仕掛けというか、トリックというか、が予想を超えてくる）。

推理小説なのだけど、現代社会に潜む闇の部分だったり、人が本来持っている温かい部分だったりが、緻密に描写されていてホッとしたり、ずっと悩まされたりします。そこが好きな理由。

✿生徒に一言✿

本はね、読んだ方がいいよ。小さいころから周りの人に言われすぎて、飽き飽きしているかもしれないけれど。人と出会うのと一緒です。「一期一会」ですね。

図書委員会の『古本市』は、生徒の皆さんと先生方のご協力により、

３６７冊の本が集まり、**5,３５０円**の売上がありました。

ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました

LIBRARY
WELCOME

図書室前の掲示板を一新し、「高校生ニュース」の掲示を始めました。ご覧ください！